

2018年（平成30年） 3月30日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 (一財)日本エネルギー経済研究所  
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)  
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階  
ホームページ <http://oil-info.ieej.or.jp>

## ■ 概況

3/15~3/21のNYMEX・WTIは、61.19~65.17ドルの範囲で堅調に推移した。

3月22日は、前日の65ドル台回復の反動から利益確定売りが相次ぎ、また、米中貿易摩擦の激化による米国株価値下がり等の先行き不安、ドル高進行に伴う割高感などから、3日振りに反落した。5月限の終値は前日比0.87ドル安の64.30ドルだった。

週末23日は、サウジのファリハ・エネルギー相の協調減産延長発言、対イラン強硬派のポルトン元国連大使の大統領補佐官就任などを受けて、反発した。ペーカー・ヒューズ社の米国内石油掘削リグ稼働数が804基（前週比4基増）と3年振りの水準に増加したものの、影響は限定的であった。5月限の終値は前日比1.58ドル高の65.88ドルだった。

週明け26日は、前週の上昇の反動による利益確定売りが優勢で反落した。ただ、イエメンのシーア派武装集団フーシ派がサウジに向け弾道ミサイルを複数発射、サウジ軍が迎撃したとの報道が相場を下支えた。5月限の終値は前週末比0.33ドル安の65.55ドルだった。

27日は、朝方、サウジのムハンマド皇太子のOPECとロシアが協調減産延長を検討中との発言、先日来のイラン核合意見直しの動き等を材料に、66ドル台まで上伸したが、その後、高値警戒感、利益確定売りやドル高による割高感等から、反落した。5月限の終値は前日比0.30ドル安の65.25ドルだった。

28日は、米エネルギー情報局(EIA)の米国在庫週報で、原油在庫増加が市場予想に反して積み増しとなったこと、さらに、米国原油生産量が記録の高水準となったことから、3日

続落した。5月限の終値は0.87ドル安の64.38ドルだった。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(5月渡し)は、前週61.50~63.10ドルの範囲で推移した。3月22日65.70ドル、23日65.40ドル、26日66.10ドル、27日65.80ドル、28日65.10ドルで推移した。

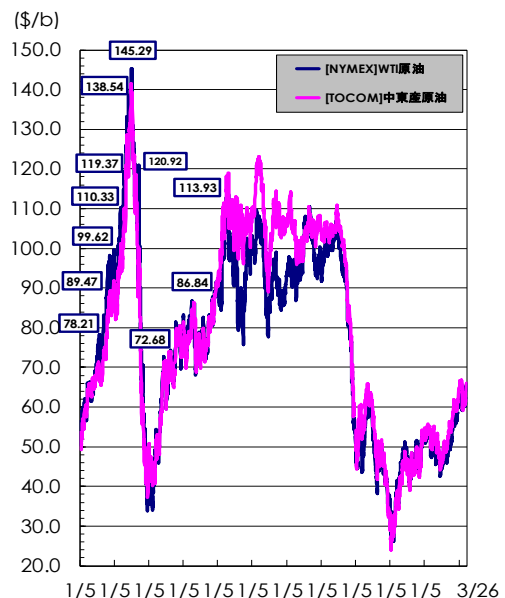
為替は、前週105.93~106.28円の範囲で推移した。3月22日105.63円、23日104.93円、26日105.00円、27日105.59円、28日105.50円で推移した。

財務省が29日発表した貿易統計(速報・旬間ベース)によると、3月上旬の原油輸入平均CIF価格は(速報)は、45,513円/klで前旬を1,453円下回り、ドル建てでは67.63<sup>ドル</sup>/バレルで前旬比1.41<sup>ドル</sup>安となった。為替レートは1<sup>ドル</sup>/106.99円。

主要元売会社の4月第1週に適用する卸価格は、ガソリンが全社2.0円の値上げ、軽油が1.5~2.0円の値上げ、灯油が据え置きから2.0円の値上げとなった。原油価格は大きく値上がりし、為替レートの円高がこれをやや相殺したが、原油調達コストは値上がりした。

そのような中で、3月26日時点の小売価格は、ガソリンが前週比0.3円の値下がり、軽油は同0.3円の値下がり、灯油は同3円の値下がり(18<sup>円</sup>ベース)だった。ガソリンは6週連続の値下がり、軽油は5週連続の値下がり、灯油は2週連続の値下がりだった(18<sup>円</sup>ベース)。この週(3月第4週)の原油コストはわずかに値上がりし、元売の卸価格は、1社がガソリンを0.5円の値上げした以外は、全社・全油種とも据え置かれた。

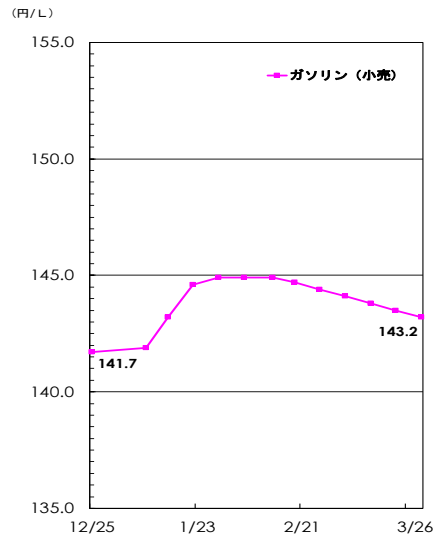
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	3/18 ~ 3/24	3,610 ▼ -48	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	92.2 ▼ -1.2	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	3/24	11,825 ▼ -665	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	3/26	66.07 ▲ 3.42	▲ 16.9
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	3/26	65.55 ▲ 3.49	▲ 17.8
	原油CIF単価 (\$/bbl)	3月上旬	67.63 ▼ -1.41	▲ 11.51
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	45,513 ▼ -1,453	▲ 5,354
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	106.99 ▲ 1.16	▲ 6.78
	外国為替TTSレート (¥/\$)	3/26	106.00 ▲ 0.93	▲ 5.44



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	3/18 ~ 3/24	962 ▼ -64	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	1,004 ▲ 111	▲ -	
	輸出	"	90 ▼ -30	▲ -	
	在庫	3/24	1,580 ▼ -132	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	3/20 ~ 3/26	57.8 ▲ 0.5	▲ 4.5	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	3/20 ~ 3/26	57.2 ▲ 2.7	▲ 7.8
		(TOCOM/中部)	3/26	58.5 ▲ 1.5	▲ 8.8
	小売 [週動向] (資工庁公表)	3/26	143.2 ▼ -0.3	▲ 9.3	

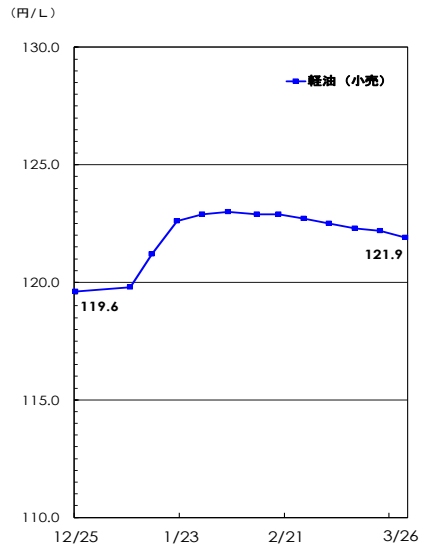
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

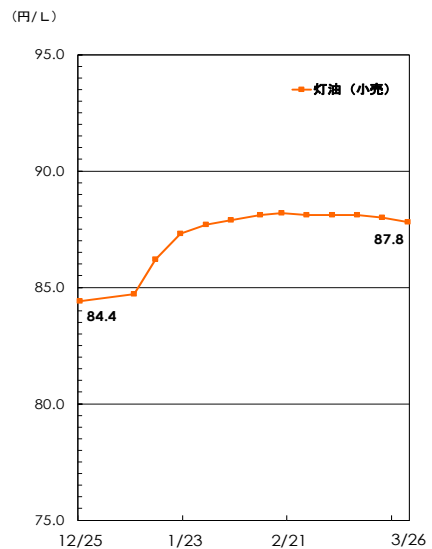
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	3/18 ~ 3/24	751 ▲ 11	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	624 ▲ 22	▲ -	
	輸出	"	96 ▲ 44	▼ -	
	在庫	3/24	1,315 ▲ 30	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	3/20 ~ 3/26	58.8 ▼ -0.2	▲ 8.1	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	3/20 ~ 3/26	62.0 ➡ 0.0	▲ 16.0
		(TOCOM/中部)	3/26	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	3/26	121.9 ▼ -0.3	▲ 9.6	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	3/18 ~ 3/24	351 ▲ 33	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	325 ▲ 37	▼ -	
	輸出	"	0 ➡ 0	➡ -	
	在庫	3/24	1,397 ▲ 25	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	3/20 ~ 3/26	61.6 ▼ -0.4	▲ 11.9	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	3/20 ~ 3/26	59.4 ▼ -0.3	▲ 14.8
		(TOCOM/中部)	3/26	58.5 ▼ -1.0	▲ 13.8
	小売 [週動向] (資工庁公表)	3/26	87.8 ▼ -0.2	▲ 9.7	



■ 関連情報

1 海外/原油

3月28日のNYMEX市場WTI原油は、米エネルギー情報局(EIA)の米国在庫週報で、原油在庫が前週比169万バレル増と市場予想(同30万バレル減)に反して、2週振りの積み増しとなったこと、最近週の米国原油生産が1,043万b/dと記録的高水準に達したこと等、米国における供給過剰感が高まり、3日続落した。5月限の終値は前日比0.87ドル安の64.38ドル、6月限の終値は前日比0.83ドル安の64.35ドルだった。

EIAによると、3月26日時点のガソリンの小売価格は、前週比5.0セント値上がりの1ガロン2.648ドル(74.6円/ℓ)となった。ディーゼルは前週比3.8セント値上がりの3.010ドル

(84.7円/ℓ)。ガソリンは2週連続の値上がり、ディーゼルは7週振りの値上がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、平成30年3月18日～3月24日に休止したトッパー能力は6.5万バレル/日で、前週に対して横ばいであった(全処理能力は351.9万バレル/日)。原油処理量は361.0万klと、前週に比べ4.8万kl減少。前年に対しては2.7万klの減少。トッパー稼働率は92.2%と前週に対して1.2ポイントの減少、前年に対しては6.0ポイントの増加となった。

生産は前週に比べて灯油、軽油が増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/6.2%減、ジェット/25.3%減、灯油/10.5%増、軽油/1.5%増、A重油/14.0%減、C重油/11.1%減。今週のC重油の輸入は4.6万kl(前週比4.6万kl増)。軽油の輸出は9.6万kl(前週比4.4万kl増)。

出荷(輸入分を除く)は、前週比ではガソリン、灯油、軽油が増加となり、その他の油種で減少となった。前年比ではガソリン、軽油が増加となり、その他の油種で減少となった。ガソリンの出荷は100.4万kl(対前週12.4%増)と2週連続で前週比で増加、2週振りで前年比で増加となり、12週振りで100万klを上回った。ジェット▲2.9万kl(対前週▲144.4%減)、灯油

32.5万kl(対前週13.0%増)、軽油62.4万kl(対前週3.8%増)、A重油24.2万kl(対前週5.1%減)、C重油17.8万kl(対前週37.3%減)。輸入データが不明なため、ジェットの出荷量は期末在庫から期初在庫・生産量・輸出量を減じてマイナスとなった。

(単位:千KL)

	今週 (3/18 ~ 3/24)	前週 (3/11 ~ 3/17)	前週比
ガソリン	1,004	893	▲ 111 (12%)
ジェット燃料	-29	66	▼ -95 (-144%)
灯油	325	288	▲ 37 (13%)
軽油	624	602	▲ 22 (4%)
A重油	242	255	▼ -13 (-5%)
C重油	178	285	▼ -107 (-38%)
合計	2,344	2,389	▼ -45 (-2%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

3月24日時点の在庫は、ガソリン、A重油、C重油が取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。前年に対しては、ジェット、灯油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。

ガソリンは158.0万kl、前週差13.2万kl減。前年に対しては14.0万kl少ない。

灯油は139.7万kl、前週差2.5万kl増。前年に対しては27.2万kl多い。

軽油は131.5万kl、前週差3.0万kl増。前年に対しては16.4万kl少ない。

A重油は69.7万kl、前週差0.0万kl。前年に対しては6.6万kl少ない。

C重油は185.6万kl、前週差0.8万kl減。前年に対しては13.4万kl少ない。

(単位:千KL)

	今週 (3/24)	前週 (3/17)	前週比
ガソリン	1,580	1,712	▼ -132 (-8%)
ジェット燃料	989	866	▲ 123 (14%)
灯油	1,397	1,372	▲ 25 (2%)
軽油	1,315	1,285	▲ 30 (2%)
A重油	697	697	▶ 0 (0%)
C重油	1,856	1,864	▼ -8 (-0%)
合計	7,834	7,796	▲ 38 (0.5%)

### 3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

3月20日から3月26日の原油価格は、前週対比で大きく値上がりし、為替レートの円高がややこれを相殺したが、原油コストは値上がりしたと見られる。

陸上スポット価格は、3月20日～3月26日までの間、ガソリン111円台で値上がり、軽油58円台で横ばい、灯油61円台で横ばいで推移した。

海上スポット価格は、同期間で、ガソリン114～118円台で値上がり後暴落、軽油60～62円台で値上がり後横ばい、

灯油60～61円台で横ばい後値下がりして推移した。

先物価格は、同期間で、ガソリン109～112円台で大きく値上がり、軽油62円台で横ばい、灯油58～60円台で値下がり後やや回復して推移した。

元売の卸価格は、ガソリンは全社2.0円の値上げ、軽油は1.5～2.0円の値上げ、灯油は据え置きから2.0円の値上げとなった。

### 3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

製品スポット市況は、ガソリンは全取引で値上がり、灯油は海上の横ばい以外が値下がり、軽油は陸上の値下がり・海上の値上がり・先物の横ばいと分かれた。

4月第1週(3月29日～4月4日)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(3月20日～3月26日千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは0.5円の値上がり、灯油は0.4円の値下がり、軽油は0.2円の値下がりだった。東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが0.8円の値上がり、灯油は横ばい、軽油は1.1円の値上がりだった。先物価格は、ガソリンが2.7円の値上がり、灯油は0.3円の値下がり、軽油は横ばいだった。原油価格は大きく値上がりし、為替の円高がやや相殺したが、原油コストは値上がりした。

4月第1週の大手元売の卸価格は、ガソリンが全社2.0円の値上げ、軽油が1.5～2.0円の値上げ、灯油が据え置きから2.0円の値上げとなった。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM) (単位: 円/%)

[陸上ローリー4地区平均]	今週 (3/20 ~ 3/26)	前週 (3/13 ~ 3/19)	前週比
レギュラー	57.8	57.3	▲ 0.5
灯油	61.6	62.0	▼ -0.4
軽油	58.8	59.0	▼ -0.2

(TOCOM) (単位: 円/%)

[期近物/終値] [平均]	今週 (3/20 ~ 3/26)	前週 (3/13 ~ 3/19)	前週比
レギュラー	57.2	54.5	▲ 2.7
灯油	59.4	59.7	▼ -0.3
軽油	62.0	62.0	→ 0.0

※上記価格は税抜き価格

参考値 (3/20～3/26実績値) (単位: 円/%)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 0.5	▲ 2.7	▲ 1.6
灯油	▼ -0.4	▼ -0.3	▼ -0.4
軽油	▼ -0.2	→ 0.0	▼ -0.1
A重油	▼ -0.2		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

### 4 国内/製品小売価格

3月26日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.3円安の143.2円、軽油は同0.3円安の121.9円、灯油は同0.2円安の87.8円(18%ベースででは同3円安の1581円)だった。ガソリンは6週連続の値下がり、軽油は5週連続の値下がり、灯油は2週連続の値下がりだった。都道府県別に、ガソリンの値上がりは1県、横ばいは8県、値下がり38都道府県だった。全国最安値は徳島県の137.3円(同0.3円高)、次が岡山県の137.9円(同1.6円高)、最高値は長崎県の151.7円(同0.1円安)だった。最も値上がりしたのは、0.3円高の徳島県(137.3円)だった。最も値下がりしたのは、1.6円安の岡山(137.9円)だった。

先週の原油コストは値上りし、元売の卸価格は、ガソリンが全社2.0円の値上げ、軽油が1.5～2.0円の値上げ、灯油が据え置きから2.0円の値上げに分かれ、6週連続でガソリン小売価格は値下がりした。今週の原油価格は大きく値上がりし、為替レートの円高がこれをやや相殺したが、原油コストは値上がりした。次週(4月2日)のガソリンの小売価格は値上がりが見込まれる。

(単位: 円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (3/26)	前週 (3/19)	前週比	直近高値
レギュラー	143.2	143.5	▼ -0.3	08/8/4 185.1
灯油	87.8	88.0	▼ -0.2	08/8/11 132.1
軽油	121.9	122.2	▼ -0.3	08/8/4 167.4

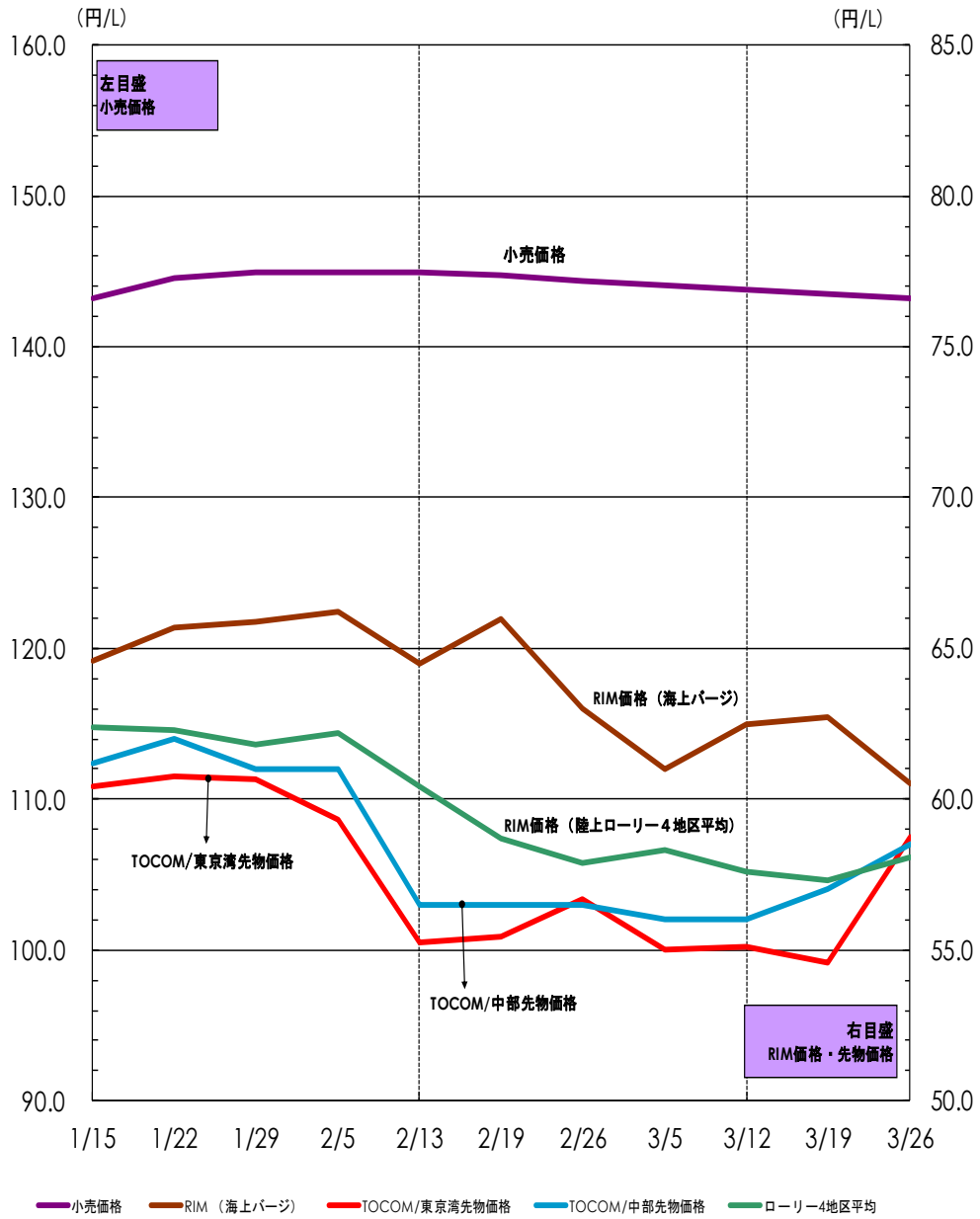
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

# ガソリン価格推移

(2018/1/15 ~ 2018/3/26)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格  
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

## ■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<http://oil-info.iecej.or.jp>) にも掲載しています。  
次回(2018第1号)の公表は、4/6(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成29年9月末現在)は、12月13日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

### 本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

### 「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

### 本レポート掲載データの出所について

#### ①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

#### ②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

#### ③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

#### ④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

#### ⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

#### ⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。